

本日のテーマ： 製造業の輸出を考える

7月19日版にて製造業の付加価値額の50%程度が輸出に依存していることが分かりました。今回はこの延長で、輸出の現状を少し細かく見てみたいと思います。

1. 輸出総額の長期変動

まず初めに、日本からの輸出総額の長期変動をみます。1970年と2000年とを比較した場合ドルベースで24.9倍、円ベースで7.4倍となっています。また、この間の国民総生産（GDP）の変化は、1970年が73.2兆円、2000年が518.3兆円と約7.1倍となっています。即ち国内のGDPの成長に相当した輸出額の伸びがあったことが分かります。

次に、10年毎の輸出総額の変動をみますと、世界総額に占める日本の比率は1986年の10.2%までは拡大の傾向にありましたが、この年以降は縮小傾向となり、2001年では6.6%程度と急激にその比率を低下させてきています。

日本よりの輸出総額の長期変動

	1970年	1980年	1990年	2000年
億ドル	193	1298	2869	4807
世界比%	6.4	6.7	8.3	7.6
為替レート	360	239	144	107
億円	69,480	310,222	413,136	514,349

JETRO 統計資料より

2. 輸出総額の短期変動

短期的な輸出総額では2000年に拡大がありましたが、ほぼ4100億ドル前後で推移しています。

日本よりの輸出総額の短期変動(単位:億ドル)

1999年	2000年	2001年	2002年
4174	4807	4052	4159

JETRO 統計資料より

3. 輸出先とその比率

次に輸出先をみることにします。

第1位は常に米国ですが、1968年の31.5%をピークに一時1975年の20.0%とかなりその比率を低下させたことがありました。しかし、その後暫くは拡大を示し、1986年の38.5%をピークに再びその比率を低下させていきました。

ただし、90年代に入ってから約30%前後の数値で安定が継続しています。

近年良く指摘されることではありますが、中国への輸出比率がかなりな割合で拡大しています。中国のここ10年の平均経済成長率が9.4%であり、しかも日本よりの中国向け輸出は大きく拡大しています。

輸出先別比率(単位:%)

	1999年	2000年	2001年	2002年
米国	30.7	29.7	30.0	28.5
中国	5.6	6.3	7.7	9.6
韓国	5.5	6.4	6.3	6.9
台湾	6.9	7.5	6.0	6.3
香港	5.3	5.7	5.8	6.1
ドイツ	4.5	4.2	3.9	3.4
英国	3.4	3.1	3.0	2.9
オランダ	2.9	2.6	2.9	2.5

JETRO 統計資料より

4. 輸出品目

輸出額では自動車、電気機器、一般機械が高い比率を示しています。一般機械を除き、共に海外生産比率も高い業種です。これら海外工場への部品供給が寄与していると思われます。

日本の商品別輸出品目(2002年輸出)

(単位:1000ドル, %)

	金額	シェア
総額	415,862,257	100
輸送用機器	103,664,697	24.93
電気機器	95,282,463	22.91
一般機械	84,558,094	20.33
化学製品	33,290,263	8.01
金属及び同製品	25,765,329	6.2
精密機器	16,119,037	3.88
繊維及び同製品	7,332,979	1.76
非金属鉱物製品	4,513,317	1.09
食料品	2,143,732	0.52
その他	43,192,346	10.39

JETRO HPより作成

5. 中国の主な機械品輸入品目

かなりな速度で拡大する中国への輸出の詳細を知るため、中国で現在輸入されている主な機械産業品を取り上げてみました。中国の機械産業の主な輸入品目は部品が主体をなしています。自国内で組立生産する機械やエレクトロニクス製品に組み込まれる部品であることが明確です。

中国の機械産業の主な輸入品目 (2001年、単位：億ドル)

一般機械・電気機器	405.6
エレクトロニクス製品	559.1
輸送用機器	45.3

JETRO 統計資料より

詳細 (2001年、単位：億ドル、%)

IC(集積回路)	170	16.8%
OA機器部品	68.8	6.8%
通信機器及び部品	52.8	5.2%
コンピュータおよび部品	49.8	4.9%
その他産業機械	40.2	4.0%
半導体デバイス	37.3	3.7%
チューナー	35.8	3.5%
カラーディスプレイ管	28.8	2.9%
自動車部品	25.1	2.5%
トランスフォーマー、電源	21.3	2.1%
AV機器の部品	20.2	2.0%
印刷回路	19.3	1.9%
成型機械(プラスチック、ゴム)	15.5	1.5%
乗用車	12.7	1.3%

6. まとめ

1) 日本の輸出は総額的にはほぼ安定している。しかし、世界の中での輸出比率は急激に縮小しています。これは世界的に輸出が拡大している中で、相対的に日本のその比率が低下していることを示していると言えます。

2) 中国への輸出が部品を中心に拡大している。製造工程をX軸に、利益率をY軸にとるカーブでは中間の組立工程の利益率が低く、Y軸に近い部品工程の利益率が高いスマイルカーブになることが一般的です。この点を考えますと、日本国内の製造業の輸出産業構造が組立型からより高い利益率を確保しやすい、特殊部品製造型に変化していることが考えられます。

3) 中国への輸出に関して

これまで見てきたように、中国への輸出は拡大していますが、日本からの輸出は機械部品に集中しています。これに対し、欧州等からの輸出は中国国内での消費市場をターゲットとした内容が多いとの指摘もあります。

中国国内の富裕層も増加してきている現在、中国との生産競争で縮小をせざるを得なかった日本の業界のチャンスではないでしょうか。高付加価値品の市場として、日本国内市場だけでなく、中国市場をも取込んでみては如何でしょうか

詳細は下記をご参照下さい。

JETRO 東野大氏

日本の対中輸出とその誘発要因

<http://www.jetro.go.jp/ec/j/trade/workingpaper/wp003.pdf>

JETRO 貿易統計詳細

<http://www.jetro.go.jp/ec/j/trade/excel/gaikyo2002.xls>

ワポイントアドバイス (7月19日版)

「平成14年度製造基盤白書を読む」は弊社HPをご参照下さい。



中上義春画像
白浜エネルギーランド
似顔絵ロボット作品
(1990年9月)

(有)関西中小企業研究所

代表取締役 中上義春 (Nakae Yoshiharu)

(中小企業診断士)

大阪市中央区南船場2丁目2番14号

TEL/FAX 06-6263-7057

E-mail: xwmfd790@ybb.ne.jp

<http://www.rinku.zaq.ne.jp/bkai0508/01.htm>
